

対応者：古市剛史

対応者：川本芳

対応者：川本芳

対応者：鈴木樹理

消費エネルギーを低下させる遺伝子多型はヒトでは生活習慣と相まって肥満を発症する。UCP (脱共役タンパク質) は電子伝達系に共役した ATP 合成を切り、エネルギーを熱として放散させるタンパク質であり、体温上昇に寄与する。UCP1 は褐色脂肪細胞にありヒトにおいて A-3826G は転写量を減少させ、肥満に関係するという報告と関係しないという報告に分かれているが、UCP は 1-5 までであることが知られており、UCP1 の多型を代償することも考えられる。UCP1-3826 の領域のヒト、チンパンジー、アカゲザルのデータベースから共通のプライマーを合成し、PCR で増幅し、Sau3AI で切断し多型の有無を調べた。チンパンジー 26, ゴリラ 8, アジルテナガザル 2, ニホンザル 88, カニクイザル 24, アカゲザル 18, ブタオザル 4, ボンネットモンキー 3 頭全てが俟約型の G を有していた。なお、オランウータンは塩基配列からは制限酵素部位に変異が見られ、この RFLP 法では検出できなかったが、この個体では G を有していた。以上、アドレナリン受容体

対応者：正高信男